

平成28年11月28日

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会
会員の皆様へ

《12月度農場便り》

「今年も師走」

平素は大変お世話になり有難うございます。先ずは10月度よりの発送が不規則になっていることをお詫び申し上げます。左腰の故障も大分回復して無理は出来ませんが畑にも出られるようになりました。収穫期の2か月間、もどかしい、苛立つ日々が続きました。初めての経験もこの先活きることでしょう。毎年のこととはいえ先般、地元の若宮八幡宮での新嘗祭に新米を奉納することが出来ました。これも友の会の皆様はじめ関係した多くの方々のお蔭と心より感謝申し上げます。それにしても就農8年目の今年は今まで経験したことの無い苦難続きの一年でした。1月のハウス2棟の全壊にはじまり、3月には研修生の突然の戦線離脱、このことは単に人手不足が生じたというより年間の栽培計画が狂い、農場運営の根幹に多大な影響がありました。9月には前述の過労からの左腰の故障。実りの秋のお米、大豆の収穫も他人任せとなり収穫も喜びも味わえないシーズンでした。肉体的な面ばかりでなく総合的に農への取り組みを見直す大きな節目の年となりました。「災い転じて福となす」この一年を来る年からの教訓にするしかありません。自らの能力の範囲の確認をする中で「農への思い」を着実に実現していくしかないと改めて考えた次第です。自然界の力を頂く無農薬、無肥料の自然栽培はどうしても手間が掛かり体力面の負担も増えます。健康第一に研修生の為にと増やした田畑も見直し、栽培する作物の品質重視に力点を移し取組んでいく所存です。春の連休前に開店した週末営業の直売所も人手不足から7月には開店休業となりました。小麦の製粉、お米の粳摺り精米施設も使い切っている状況ではありません。冬に向かい味噌加工も本格的に始まります。決め手となる米麴を自前で製造する準備も急務の一つです。多くの課題を抱えたこの一年ですが一方で東京の麻布高校との農業体験は6年目、神奈川県立高校生の農業研修も2年目を迎え、大手企業さんとの農業体験スクールも3年間続きノウハウの確立も出来ました。文京区の丸山町会との交流もNPOの「風のやすみば」さんを通じ継続し都会との交流も実現できています。又都内の飲食店様への野菜の直送も継続しています。これも会員の皆様のご支援の賜物と感謝しております。来る年も引き続きご愛顧頂けますようお願い申し上げます。

・オーガニックライフスタイル EXPO(11月18日)・大豆の脱穀(11月27日)



メール yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp

携帯080-3080-3017